



保育の質向上に係るワークショップ の実施について

| ワークショップ実施の背景

保育サポートコーディネーターによる巡回を通じて、現場からは次のような声が寄せられています。

交流機会の希望

他施設の保育者と話す機会や交流、情報交換の場があるとよい。

保育実践の学び

他施設ではどのような保育を行っているのかを知り、自施設の保育に生かせる学びの機会がほしい。

横のつながり

似たような境遇の保育者同士が課題や悩みを共有できるよう、施設や法人の枠を越えた横のつながりができるとよい。

| ワークショップの目的

課題解決

参加者主体のワークショップ実施により、その後の現場での課題や困り感の解決の一助となるよう、実践的な取組を目指します。

スキルアップ

現場の声やトレンドを踏まえたテーマ設定により、保育従事者一人ひとりの専門性と実践力が高まるような取組を目指します。

地域全体の向上

各施設の主体的な取組を支えながら地域全体の保育の質を持続的に向上させる仕組みを構築します。

➤ このワークショップは、個々のスキルアップや課題解決能力の向上を図るとともに、施設や法人の垣根を越えた横つながりを生み出し、地域全体で保育の質向上を図るための基盤となることを目指します。

参加対象

認可保育所

認定こども園

幼稚園

地域型
保育事業

認可外保育

ワークショップ形式

単発コース

- 全3テーマ
- 各回定員30名
- 興味・関心のあるテーマに気軽に参加
- 同じテーマを深めたい保育者との情報共有・関係構築

継続コース

- 1テーマを全3回で深く学ぶ
- 定員20名
- グループで継続的な対話
- メンバーとのつながりの構築

| ワークショップの基本方針



グループワーク

少人数グループでの協働作業を通じて、
実践的な学びを深めます



参加型

講義形式ではなく、参加者が主体的に学び
合う場を重視します



対話・交流

施設の枠を越えた参加者同士の対話と交流
を促進し、横のつながりを構築します



アドバイザーの役割

専門家としての役割

本ワークショップにおけるアドバイザーの役割として、単に専門的知見を伝達するだけでなく、参加者同士の学び合いを促進し対話を活性化するほか、議論を深めるファシリテーターとしての機能も担い、その後の現場実践へとつなげる橋渡し役と位置付けます。

1 専門的知見の享受

保育現場での有効な実践・取組につながるよう、アドバイザーの専門的知見を参加者に伝達し参加者の学びを深めます。

2 参加者同士の学び合いの促進

グループワークでの助言や議論の整理を通じて、参加者同士の意見交換を活性化します。

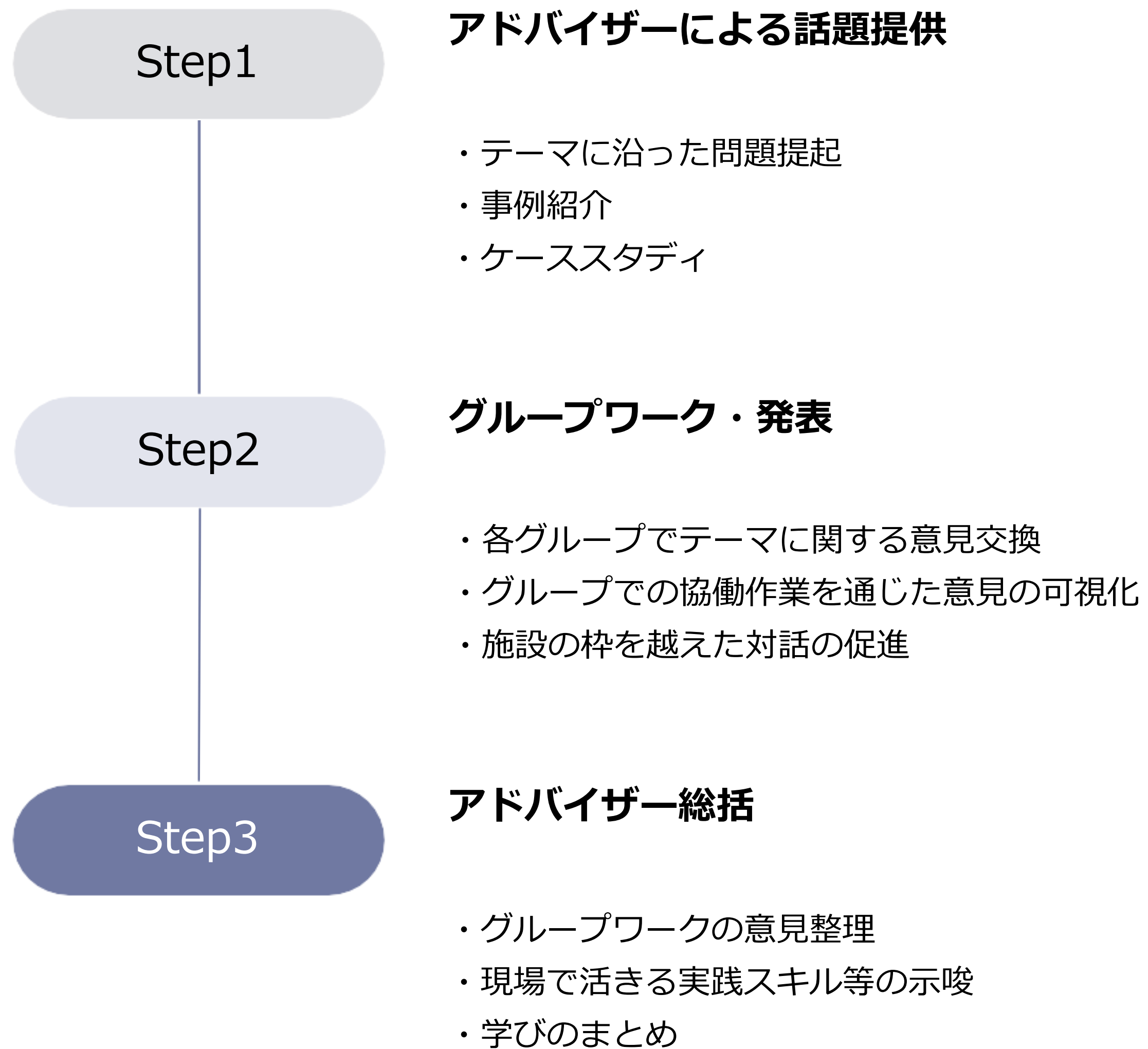
3 現場実践への橋渡し

専門的知見と現場の課題をつなぎ、実践につながる具体的なヒントやメッセージを提供します。

| ワークショップの流れ

参加型の 学び合い

講義形式ではなく、参加者同士の対話と交流を重視したグループワークを中心に進めます。



単発コースⅠ『保護者等への適切な対応』

子どもの育ちを支える保護者との連携

<アドバイザー>

素野 香織 氏

(旭川市まごころ接遇アドバイザー)

平成18年から旭川市嘱託職員として勤務。
前職はおもちゃ屋さんでの玩具販売，新入社員教育等を担当。

その経験を活かし、旭川市職員のみならず民間企業等においても接遇マナーについての指導や研修講師を行っている。

<テーマ>

「伝える」より「伝わる」コミュニケーション ～困った場面を信頼につなげる対話のコツ～

<日程・場所>

令和8年8月18日（火）13：30～16：00

旭川市総合庁舎7階大会議室A

<ワークショップ内容>

保護者との効果的なコミュニケーション方法を、実際の困難事例をもとにグループで考えます

継続コース『発達に配慮を要するこどもへの対応』

<アドバイザー>

熊田 広樹 氏

(旭川市立大学短期大学部 教授)

専門は地域療育、発達相談、子どもの言葉を育む保育等。自治体の乳幼児健診や発達相談（ことばの相談）、就学健診、児童発達支援センター職員によるケース検討会などに携わりながら、「保育者を中心とした多職種協働による地域療育」のあり方について実践研究を行っている。

佐藤 晃央 氏

(旭川子ども総合療育センター)

作業療法士。子どもの発達や感覚・運動面への支援を専門とし、発達に配慮を要する子どもへの支援に携わるとともに、各種講演・研修等を通じて実践的な知見の普及にも取り組んでいる。

<テーマ>

1. みんな違ってあたりまえ ～インクルーシブ保育ははじめの一歩～
2. 感覚遊びのヒミツ ～夢中になるのはワケがある～
3. ことばが育つ瞬間 ～子どもの「伝えたい」を引き出すヒント～

<日程・場所>

1. 令和8年 9月 2日（水） 13：30～16：00 旭川市総合庁舎 7階大会議室A
2. 令和8年10月21日（水） 13：30～16：00 旭川市総合庁舎 7階大会議室A
3. 令和8年11月18日（水） 13：30～16：00 旭川市総合庁舎 7階大会議室A

<ワークショップ内容>

発達の面で気になる子に対してのアプローチ方法を、実際に身の回りであった事例をもとにグループで話し合い、実践につなげます

単発コースⅡ『園での食育の実践的な取組』

実践から学ぶ食育と事故防止

<アドバイザー>

豊島 琴恵 氏

(旭川市立大学短期大学部 副学長)

食生活学・応用栄養学を専門とし、「食育」や乳幼児の咀嚼・嚥下に関する研究・教育に取り組む。保育園児を対象とした咀嚼力向上プログラムの研究や、学校給食・地域食育の実践にも携わるほか、NPO法人ひがしかワッカ理事長として地域食堂の運営や留学生への食支援など、地域に根ざした活動を展開している。

<テーマ>

広げよう！食育のアイデア ～明日から使える食育実践と事故予防のポイント～

<日程・場所>

令和8年12月中旬（予定）

※会場調整中

<ワークショップ内容>

市内の園で実際に行っている食育実践発表を聞いたり、日々の食事指導において気を付ける点などを話し合ったりし、食育への知識を広げます

単発コースⅢ『人材育成・組織づくり』

保育現場におけるチームマネジメント

<アドバイザー>

棚橋 裕子 氏

(旭川市立大学短期大学部 准教授)

24年間の幼稚園勤務経験を持つ専門家。
主な研究テーマは、主任保育者の役割や意識、子ども理解、保育の計画と実践で、不適切保育や幼児期教育の重要性についても発信。

<テーマ>

主任のチカラ集まれ！ ～チーム保育のアップデート講座～

<日程・場所>

令和9年1月下旬（予定）

※会場調整中

<ワークショップ内容>

日々、先頭に立って職場集団をまとめる主任保育者が自園の現状や悩みなどを話し、人材育成や組織作りなどに活かします

ワークショップの効果

保育の質向上 ワークショップ

1 専門的知見の獲得

各分野の専門家から最新の理論や実践事例を学び、保育の専門性を高めるほか、参加者同士の対話を通じて自園では気づかなかった視点や解決のヒントを得ることができます。

2 相互学習の促進

参加者同士が互いの経験から学び合い、共感や刺激を受けながら成長します。他施設の成功事例や失敗談を共有することで、実践的な知恵が蓄積されます。

3 実践力の向上

ワークショップで得た学びを各施設に持ち帰り、現場の改善や新たな取組に活かします。継続的な交流を通じて、地域全体の保育実践が向上します。